



進化の道をたどることは神に反することなのか——

実在した、古生物学者・神父テイヤールが信じる道とは.....



【芸術監督・演出】小川絵梨子



【作】野木萌葱



田中壮太郎



小林 隆



伊達 暁



佐藤祐基



近藤芳正

【チケット好評発売中】👉 新国立劇場ボックスオフィス 03-5352-9999

写真・資料のご請求、取材のお問い合わせ

◎新国立劇場 制作部演劇 広報担当

TEL: 03-5352-5738 / FAX: 03-5352-5709

◎新国立劇場 制作部演劇 制作担当

TEL: 03-5352-5736

 **新国立劇場**  
NEW NATIONAL THEATRE TOKYO  
<http://www.nntt.jac.go.jp>

## ◎作品について

シーズン最後を飾るのは、新世代の社会派劇作家として大きな注目を浴びている「パラドックス定数」の野木萌葱による新作書き下ろしです。

進化論を否定するキリスト教の教えに従いながら、同時に古生物学者として北京原人を発見し、一躍世界の注目を浴びることとなったフランス人司祭、ピエール・ティヤール・ド・シャルダンの生涯。どうしても譲れないものに直面したとき、信じるものを否定されたとき、人はどうなっていくのか、どう振舞うのか。歴史の中で翻弄されながらも、懸命に、真摯に生きた人々を描きます。

史実や実際の事件から登場人物を造形し、緊張感のある会話劇を展開する野木と、本シーズンから新国立劇場の芸術監督に就任した小川絵梨子。初めてタッグを組む二人が、どのような世界を描き出すのか、どうぞご期待ください。

## ◎作者 野木萌葱からのメッセージ

惚気話をしようと思います。

私はよく劇場に一目惚れするのですが、そうなった時は何が何でも其処で上演しようと策を弄します。その劇場が持つ空間を手に入れたくなるのですね。

さて、新国立劇場小劇場です。初めて足を踏み入れた時のことははっきりと覚えています。

「四角いな」

この小劇場にはほぼ直線しかありません。この潔さ。この美しさ。撃ち抜かれました。まさに一目惚れです。ですが相手は新国立劇場です。おいそれと手は出せません。名前からして気難しそうではありませんか。もしかしたら上演しようと思えば上演できたのかもしれない。その一步を踏み出せなかったのは、当時の私にあの空間と対峙するだけの狂気が足りなかった所為でしょう。

と、十五年以上も悶々として一目惚れも忘れ掛けていた頃でした。

「やってみます？」

なんと逆ナンです。怖気づきました。しかし同時に、私の飼っている狂気があの時よりも少しだけ力を増して頭をもたげたことにも気がつきました。

さあ、口説くのは此処からです。気難しそうなあの姿の下に、どんな艶やかな貌を隠しているのか。存分に戯れてみようと思います。

## ◎演出 小川絵梨子からのメッセージ

この度、新国立劇場に初めて野木萌葱さんをお迎えすることができました。劇場のために新作を書き下ろしてくださることになり、大変にありがたく嬉しく思っています。私は翻訳戯曲を演出することが多いのですが、翻訳劇ではどうしても取捨選択しなければならないことが少なからず出てきてしまいます。そのため、日本の戯曲でしかも同時代を生きる同世代の作家の戯曲を演出することへの憧れがありました。その中、今回こうして野木さんと一緒にできるのは幸せの一言に尽きます。私は、てらいのない、正直で、まっすぐな野木さんの戯曲がとても好きです。それでいて物語として、人間ドラマとして本当に面白いのです。野木さんの戯曲が持つ、凛とした気高さを損なわないよう、私も丁寧に正直に演出したいと思っています。

## ◎スタッフプロフィール

### 野木萌葱 (NOGI Moegi)

---

日本大学芸術学部 演劇学科劇作コース(第一期生)卒業。

中学2年の時に観た映画をきっかけに劇作に目覚める。高校進学後も演劇部にて劇作・演出を担当し、そのまま日大へ進学。大学在学中の1998年「パドックス定数」をユニットとして旗揚げ。2007年の『東京裁判』初演時に劇団化する。史実や実際の事件を枠組みとして用い、大胆な想像力で物語を創造。濃密な人間関係より生まれる緊張感のある会話劇を得意とする。2016年ウォーキングスタッフプロデュースにて上演された「三億円事件」が、第24回読売演劇大賞優秀作品賞を受賞した。

### 小川絵梨子 (OGAWA Eriko)

---

1978年、東京生まれ。2004年、アクターズスタジオ大学院演出部卒業。06～07年、平成17年度文化庁新進芸術家海外派遣制度研修生。10年、サム・シェパード作『今は亡きヘンリー・モス』の翻訳で第3回小田島雄志・翻訳戯曲賞受賞。12年、『12人～奇跡の物語～』『夜の来訪者』『プライド』の演出で第19回読売演劇大賞優秀演出家賞、杉村春子賞受賞。14年『ピローマン』『帰郷・The Homecoming』『OPUS／作品』の演出で第48回紀伊國屋演劇賞個人賞、第16回千田是也賞、第21回読売演劇大賞優秀演出家賞を受賞。最近の演出作品に『スポケーンの左手』『RED』『夜想曲集』『コビュ王』『CRIMES OF THE HEART 一心の罪』『The Beauty Queen of Leenane』『ファン・ホーム』『マクガワント・トリロジー』『出口なし』『熱帯樹』『WILD (ワイルド)』など。新国立劇場では『OPUS／作品』『星ノ数ホド』『マリアの首 一幻に長崎を想う曲』『1984』の演出のほか、『ウィンズロウ・ボーイ』『かもめ』の翻訳も手がけている。18年9月より新国立劇場演劇芸術監督。

## ◎出演者プロフィール

### 田中壮太郎(TANAKA Sotaro)

1970年生まれ、東京都出身。TVドラマ、映画、舞台などで活躍中。主な出演作に、映画『東京家族』(2013年)、『ソロモンの偽証 前篇・事件／後篇・裁判』(15年)、『超高速！参勤交代 リターンズ』(16年)、『湯を沸かすほどの熱い愛』(16年)、『北の桜守』(18年)、『旅猫リポート』(18年)、ドラマ『トクソウ』『フリーター、家を買う。』など。

[主な舞台]『取引THE DEAL』『エフェメラル・エレメンツ』『アトレウス』『リア』『さらば八月の大地』『百枚めの写真〜一銭五厘たちの横丁』『今は亡きヘンリー・モス』『ビルマの竖琴』『東京原子核クラブ』など。

### 小林 隆(KOBAYASHI Takashi)

東京サンシャインボーイズ出身。ドラマ「古畑任三郎」シリーズや、NHK大河ドラマ『新選組！』『真田丸』など、パイプリーパーとして活躍。連続テレビ小説『なつぞら』に出演中。9月には映画『記憶にございません！』の公開が控えている。

[主な舞台]『恋と音楽Ⅱ〜僕と彼女はマネージャー〜』『ロスト・イン・ヨンカーズ』『闇に咲く花』『国民の映画』など、新国立劇場では『ウインズロウ・ボーイ』『夢の痂』『夢の泪』『屋上庭園／動員挿話』に出演。

### 伊達 暁(DATE Satoru)

1996 年、演劇プロデュースユニット「阿佐ヶ谷スパイダース」の旗揚げに参加。以降中心メンバーとして活躍。劇団公演以外にも多数の舞台に客演するほか、近年は TV ドラマ、映画、CM ナレーションなど、映像にも活動の場を広げている。

[主な舞台]『セールスマンの死』『D51-651』『髑髏城の七人〜season 月<下弦の月>』『三億円事件』『新・幕末純情伝』『蛙昇天』『ブエノスアイレス午前零時』『カッコーの巣の上で』『はたらくおとこ』など。

### 佐藤祐基(SATO Yuki)

2005 年にドラマ『ごくせん』でデビュー。ドラマ『白と黒』で連続ドラマ初主演を果たし、その後もドラマ『VOICE[ヴォイス]〜命なき者の声〜』『ルーズヴェルト・ゲーム』などに出演。

[主な舞台]『THE FACTORY』『笑う巨塔』『わらいのまち』『オーファンズ』『AZUMI 幕末篇』『GO WEST』『鷗外の怪談』『トロイラスとクレシダ』『方舟』『ブラウニング・バージョン』など。

### 近藤芳正(KONDO Yoshimasa)

1976年、ドラマ『中学生日記』でデビュー。79年に劇団青年座研究所に入所。舞台『笑の大学』(96年・98年再演)、映画『12人の優しい日本人』(91年)、『THE有頂天ホテル』(2006 年)、『ザ・マジックアワー』(08年)など、三谷幸喜作品に数多く出演するほか、多くの舞台、TVドラマ、映画で活躍。また、01年から自身がプロデュースする「劇団 音楽ダンブエノ」を立ち上げ、09年からは「音楽ダンブエノ」から派生したソロ活動として「バンダ・ラ・コンチャン」を始動し、舞台プロデュースのほか、若手俳優へのワークショップを主宰し、後進の指導にも力を注いでいる。

[主な舞台]『髑髏城の七人〜season花』『英国王のスピーチ』『ちんけさんと大きな女たち』『ハグレット』『歌わせたい男たち』『笑の大学』など、新国立劇場では『OPUS／作品』『朱雀家の滅亡』『アジアの女』に出演。

## ◎公演概要

【タイトル】 骨と十字架

【スタッフ】

作:野木萌葱 演出:小川絵梨子

芸術監督 小川絵梨子

主催 新国立劇場

【キャスト】 田中壮太郎 小林 隆 伊達 暁 佐藤祐基 近藤芳正

【会場】 新国立劇場 小劇場 (京王新線 新宿駅より1駅、「初台駅」中央口直結)

【公演日程】 2019年7月11日(木)～28日(日)

※7月6日(土)、7日(日)にプレビュー公演あり

※7月31日(水)兵庫公演あり

【料金】 A席6,480円、B席3,240円、Z席1,620円(税込)

※プレビュー公演はA席5,400円、B席3,240円、Z席1,620円(税込)

【チケット申し込み・お問い合わせ】※一般発売:5月11日(土)10:00～

新国立劇場ボックスオフィス TEL:03-5352-9999 (10:00～18:00)

新国立劇場Webボックスオフィス <http://pia.jp/nntf/>

\* **Z席1,620円** 公演当日10時よりボックスオフィス窓口で販売。1人1枚。電話予約不可。\* **当日学生割引** 公演当日残席がある場合、Z席を除く全ての席種について50%割引にて販売。要学生証。電話予約不可。\* 新国立劇場では、高齢者割引(65歳以上5%)、障害者割引(20%)、学生割引(5%)、ジュニア割引(中学生以下20%)など各種の割引サービスをご用意しています。